

第 17 回 PIC 懇談会 第二部「南の島で暮らす、南太平洋から学ぶこと」(続き)【2/5】

ツバルの離島暮らし

小川：

さて、せっかく滅多に聞くことのできないツバルの離島暮らしのお話しなので、もんでんさんには写真を持ってきていただきました。時間の都合上、ごく一部しかご紹介できないんですけど、スライドを見ながら、ツバルの暮らしぶりをご紹介いただきたいと思います。よろしくお願いします。

もんでん：

はい。ではまず**写真 1**。これは島の港用に作った水路のところですよ。ここに「ルポ」という、ギンガメアジとかカスマアジの稚魚に当たるイワシみたいな小魚の大群がわーっと押し寄せた時期があったのですが、そのときは島じゅう朝からみんな集まって魚を捕って刺身や焼き魚にして食べていました。



小川：

ここがナヌマンガ島の港なんですよ。

もんでん：

そうです。ナヌマンガには船がつける港はなくて、フナフティから来る船は沖合に泊まって、そこから小型ボートでこの水路を通して人や荷物を運ぶのです。



小川：

続いて**写真 2**です。これは何をしていますのですか。

もんでん：

これはトローリング漁で、魚はカマスサワラです。ナヌマンガでは、みんなこういう小さいボートを使ってマグロとかカマスサワラとかカツオとかを取っています。

小川：

船外機付きのモダンなボートを使っているんですね。

もんでん：

昔は手こぎカヌーを使っていて、こぎ手と釣る人に分かれ、連携してトローリング漁をやっていましたが、最近だんだんこういうボートも入ってきました。でも底釣りとかちよっと海に出るときには今でもカヌーを使っていて、自分のカヌーは自分で作っています。



写真 3



写真 4

もんでん：

次の**写真 3**、これはそんなカヌーづくりの写真です。このオシエじいちゃんは、島の男たちにカヌーの作り方を教えている島いちばんのカヌーづくりの名人です。

そして**写真 4**、これがカヌーづくりの仕上げの段階で、オシエじいちゃんが島の若い衆に、「ここが大事なポイントなんだ」とか言って教えているところです。

小川：

先ほどこのステージで踊ってくれたサモアの皆さんもそうだったのですが、笑顔がとてもいい感じですね。続いて**写真 5**です。



写真 5

もんでん：

これは、潮が引いたときに貝を釣っている様子です。「貝を釣る」ってちょっと変な言い方ですけど、写真に穴ぼこが見えますよね、この下に貝がいてそれを「釣る」んですよ。手前に写っているのが貝釣り名人のシナばあちゃん、貝が居る小さい穴をみつけて、そこにヤシの葉の真ん中の葉身に当たる硬い部分を薄く切った棒をそろりそろりと降ろしていきます。そうしたら穴の中にある二枚貝がぱくっと食らいつくのです。

それが次の**写真 6**。こういう姿を一緒につけてきていた子どもたちが見て、今度は見よう見まねで自分たちも始めたりするわけです。



写真 6

小川：

どんどんいきましょう。次が**写真 7**。いよいよもんでんさんが出てきましたね。

もんでん：

ゴザや草スカートの材料を作っているところです。キエという種類のパンダナスの葉を1カ月から2カ月海水に漬けたあと薄く裂くの



写真 7

ですが、その作業をしているところで、いっしょに写っているのは私が住んでいた家のテアギナばあちゃんです。島ではこういう仕事をいつもいっしょにやっていました。

そして**写真8**がござ編みです。さっきの写真にあったようにキエを薄く裂いたあと、黒や赤の模様になる部分をノニの木の根っこなどを使って染めるんですが、ゴザを作るときはそのあとこうやって編んでいきます。これはマロソーばあちゃんが、嫁のルタと私にゴザの編み方を教えながら、3人で作業しているところになります。

次の**写真9**、これはうちの娘、夢さんが、ばあちゃんにゴザ編みを教わっているところです。このとき9歳で、「私もやる」と言ったところ、ばあちゃんが手取り足取り教えてくれました。

そして編み上げたゴザの完成品が**写真10**になります。



写真 9



写真 10



小川：

カラフルですね。この赤い部分は何を使って染めているんですか？

もんでん：

赤はノニの木の根っこです。

日本では果実を搾った「ノニジュース」で有名なんですけど、ノニの木はハワイとかツバルとかサモアではそこらじゅうに生えていて、ツバルではその根っこを染料に使っています。引っこ抜いた根っこの外側をがーっと削ると黄色いかつお節みたいなものができます。それにサンゴを焼いた石灰とを混ぜると、黄色がぱっと赤く変色するのです。それを染料にして赤く染めるわけです。きょうお見せしているのはかなり手の込んだもので、こんな凝った模様のもは、赤ちゃんが生まれたときや結婚式などの大切な行事に贈り物にして使っています。

(もんでん追記：サンゴ石灰は、5年～10年にいちど、大規模にサンゴ石を集めて焼いてそのまま放置しておき、各家庭の人々は染色する都度そこから石灰をとって使って使います。)

小川：

大体これくらいを作るのにどれくらい時間がかかるのですか。

もんでん：

こういうものはひとりで作るわけではないので、それはじつはけっこう難しい質問です。作る時には近所のおばちゃんたちがわ〜っと集まってやるんで。

小川：

え？ そうすると誰のものになるのですか？

もんでん：

いちおう「ゴザを作るわ」という「主宰者」はいるんですよ。で、誰かが作り始めると、隣近所のみんながわらわら手伝いに来るんです。でも「ここからここまでが誰の仕事」という風には決まっていなくて、手の空いている人が空いている時間に何気なく集まってみんなで作業する、みたいな、すごく柔軟にみんなで力を合わせて作っている感じです。

<第2部 Part3「離島の食べもの」に続く>